1-05-338 外交官・加藤外松関係写真（18枚）

No.	資料名称	点数	年　代	寸法 （縦*横,cm）	備　考
1	加藤外松肖像	1	大正7年(1918)頃	23.2*20.5	自筆サイン入りの肖像写真。左下に「47'rue Dumont-d'Urville Paris」とある。 朝倉吉彦『加藤外松略伝』によると、「フランスのパリで撮影された若き外交官時代初期」とあるため、フランス在勤の大正7年頃のものか。
2	加藤外松・三松写真	1	明治末～大正期頃	6.0*8.9	和装の若い男性2名の写真。台紙に貼付されていた付箋に「おそらく右が外松」「左は弟の三松と思われる」とある（付箋は寄贈者筆）。外松は加藤彌三八(やそはち)と「そと」の二男で、三松(みまつ)は三男。 三松(1893.7.10～1948.11.15)は第四高等学校第二部理科を経て、九州帝国大学工科を卒業。古河鉱業株式会社（現古河機械金属株式会社）に技術者として入社。大正13年(1924)、特許「穿孔による吸込式粉鉱焼結法」を公告。
3	加藤外松写真	1	（年未詳）12月12日	13.8*8.8	どこかの室内（写真館か）で撮られている。 周囲に手書きで「□(目ヵ)ト鼻ノ角度ニ注意シ給ヒ○肩ノ下リ方右手ノダラシナサ○□□(チヨヵ)トント并ンダ足ノ滑稽サ□亦御注意アレ○十二月十二日ノ夜十一時ニトツタ所□○ハアカルイ町ノ中心○価ハ六枚デ一弗(ドル)、」、「ホンノ出来心／デトツタモノナレド出来テ／見レハ棄テルコトモナラズ／御高覧ニ供スル事如件」とある。
4	加藤外松写真	1	昭和初期	11.5*16.0	№5、16～18と同じ建物（東京目黒区三田の自邸か）で撮影か（『加藤外松略伝』口絵〔11〕参照）。
5	加藤外松等写真	1	昭和初期	10.3*7.7	外松と和装の女性（母親か）の写真。 №4、16～18と同じ建物（東京目黒区三田の自邸か）で撮影か。
6	加藤外松写真	1	昭和初期	11.5*15.9	列車の外から撮影されている。
7	加藤外松写真	1	昭和13年(1938)頃	11.5*15.9	机に座る外松の写真。机上にはマイクと原稿のようなものが写っている。 左下に「MTCY」の文字が入っているが、これは満洲電信電話株式会社の新京放送局の呼出符号と一致する。外松は昭和13年(1938)に駐満州大使館参事官となっているため、その頃に撮影されたものか。
8	加藤外松写真	1	昭和初期	11.6*15.9	大礼服で撮影されている。 №9と同日の撮影か。
9	加藤外松等写真	1	昭和初期	11.4*15.8	外松（左から2番目）と他3名との集合写真。全員正装で撮影されている。右より奏任文官大礼服、陸軍武官正装、外松の左は海軍武官正装。 №8と同日の撮影か。

No.	資料名称	点数	年　代	寸法 (縦*横,cm)	備　考
10	調印式写真	1		11.5*15.9	国際的な調印式の様子を撮影したような写真。右奥に日本の国旗が見える。 外松は左奥の前列左から2番目か。
11	協議する男性たち写真	1		11.5*15.9	男性たち（日本人か）が何事かについて話し合っている様子の写真。ほどんどの人物が明るい色のスーツを着用している。
12	秩父宮・同妃両殿下奉迎晩餐会写真	1	昭和12年 (1937)4月4日	19.3*22.0	『加藤外松略伝』によると、外松のカナダ全権公使時代に、大英帝国のジョージ6世戴冠式にあたって秩父宮・同妃両殿下が昭和天皇の名代として渡欧されることになった。その途中にカナダに滞在された両陛下の奉迎晩餐会での写真。主催は外松で、会場はホテルシャトー・ローリエの宴会場。 前列左端が外松で、同右端が弓子夫人。他にカナダのキング首相や外交団、各界の名士が列席したという。 左下にサインあり。
13	軌正会大会写真	1	昭和15年 (1940)10月13日	10.7*14.9	左上に「軌正会大会」と記載あり。 運動会の開会式のように整列する男性たちの写真。列の先頭の人物は旗を掲げており、写真手前には軍服を着て楽器を手にした一団が写っている。また、空には万国旗がみえる。
14	フランス儀仗兵閲兵写真	1	昭和16年1月～ 同17年2月 (1941～42)頃	11.6*15.9	『加藤外松略伝』によると、フランス儀仗兵の閲兵の様子。また「最後の任地での記録写真」とあることから、昭和16年1月に特命全権大使としてフランスへ赴任し、同17年2月12日に在任中にパリの大使公邸内で事故死するまでに撮影されたものと思われる。 この写真の外松は眼鏡をかけている。
15	加藤外松等写真	1	昭和16年1月～ 同17年2月 (1941～42)頃	16.0*11.5	外松（右）と他2名の写真。外松が眼鏡をかけていることから、No.14と近い時期に撮影されたものと思われる。
16	加藤外松葬儀写真	1	昭和17年 (1942)9月12日	11.3*15.6	『加藤外松略伝』によると、「お別れの盛葬〔祭壇〕（於）東京府赤坂区青山南町 聖31教会礼拝堂」。しかし、祭壇上部の模様とNo.4（目黒の自邸か）の最上部の壁紙の模様が酷似していることから、この写真が聖31教会礼拝堂で撮影されたものか疑問が残る。 供物の名札は右より、「高松宮家」、「秩父宮家」、「皇后宮」、「賀陽宮家」（『加藤外松略伝』p28には天皇陛下よりの御下賜品もあったという）。 No.17も同じ場所で撮影されている。
17	加藤外松葬儀写真	1	昭和17年 (1942)9月12日	7.6*10.3	No.16の祭壇の前で撮影された男性4名の写真。中央と左の人物はNo.18にも写っている。
18	加藤外松葬儀写真	1	昭和17年 (1942)9月12日	7.6*10.3	建物の玄関のような場所で撮影されている。左から2番目と3番目の男性は、No.17の中央と左の人物である。 この建物の上部や奥の窓に施されている格子状の装飾については、No.4と5の建物にも似たものが写っている。No.4、5、16～18は同じ建物（目黒の自邸か）で撮影か。

計　18　点